

貫井の風

令和4年度 3月号

NO. 11

練馬区立貫井中学校 学校だより

天命追求型の生き方・目標達成型の生き方 (白駒妃登美)

校長・桐野 和之

大病を患い絶望の淵に立たされた私は、発病前に読んだ話を思い出しました。人間の生き方には西洋の成功哲学に代表される「目標達成型」とは別に「天命追求型」があるというのです。天命追求型とは将来の目標に縛られることなく、自分の周囲の人の笑顔を何より優先しながら、今、自分が置かれた環境でベストを尽くす。それを続けていくと、天命に運ばれ、いつしか自分では予想もしなかった高みに到達するという考え方です。そこでは、自分の夢だけを叶える for me より、周囲に喜びや笑顔を与える for you の精神、つまり志が優先されます。



天命追求型、目標追求型という視点から歴史を紐解くと、天命追求型はまさに日本人が歴史の中で培った素晴らしい生き方であることに、私は気づきました。そして私自身も目標達成型から生き方をシフトし、天命に運ばれていくうちに、奇跡的に病状が回復したのです。

天命追求型に生きた歴史上の人物といえば、豊臣秀吉はその好例でしょう。

秀吉は徳川家康、織田信長と比べて大きく違う点があります。家康や信長が殿様を父に持ったのに対し、秀吉は農家に生まれたことです。農民のこの秀吉が最初から天下統一を夢見たでしょうか。通説によると、秀吉は「侍になるために織田家の門を叩いた」ということになっていますから、おそらく若き日の秀吉は、天下を取るなど考えてもいなかつたに違いありません。



しかし、秀吉の人生はその夢を遙かに超えてしまうのです。ご存じの通り、秀吉は最初、信長に“こもの”という雑用係の立場で仕えました。雑用係は、もちろん侍の身分ではありません。けれども、信長が秀吉を雇い入れた時、きっと秀吉は、農民の自分に目をかけてもらえたことに胸を躍らせ、心から感謝したのではないでしょうか。だからこそ、例え雑用係の仕事にも自分で出来る工夫を施したのだと思います。

寒い日の朝、信長の草履を懐に入れて温めてから出した話は有名ですが、草履一つ出すにも喜んでもらえるようアイディアを加えたのです。やがて足軽となってからも信長を喜ばせたいという思いは変わらず、一層の信頼を得て侍に、さらに侍大将、近江国長浜城の城持ち大名へと登り詰めるのです。

過去の自分を振り返ると、西洋の成功哲学に刺激を受け、目標達成に突っ走っていた頃、確かに夢は叶いました。受験勉強、就職活動、子育て、すべてにビジョンを描き目標を立ててやってきました。しかし、見方を変えれば夢しか叶わなかったのです。夢を超えた現実はやっていませんでした。

では、秀吉はなぜ夢を超えることができたのでしょうか。想像するに、秀吉は最初から天下取りなど考えず、いつも“いまここ”に全力投球する生き方を貫いたからだと思います。自分のみの周りの人たちに喜んでもらえることで精いっぱいやっていった。その結果、周囲の応援を得て次々と人生の扉が開き、天下人へと運ばれていったのではないかでしょうか。

第二学年国語～席書会～

二年生の国語、書写の学習のまとめとして「席書会」を二月十五日（水）に行いました。二年生は、これまで楷書という書体の学習の他に、行書という新たな書体の学習も進めてきました。「雲海」「紅花」など、運筆の仕方や点画の連続、点画の省略などをより意識して書写することが必要な難易度の高い字も練習しました。授業に入ると、非常に高い集中力を發揮する二年生は、担当教員が机間指導する中で、「この画はどこに向かって跳ねますか。」「書き順通りに書いているのですが、形はどうすると上手く書けますか。」と、質問する生徒も多くいました。

今回の席書会は、こうした授業での取り組みを発揮するため、「楷書・行書の筆使いを意識して書く」ということをテーマに、個人個人で書きたい書体と四字熟語を決めました。また、それだけでなく、その四字熟語の漢字を書くにあたって、どうしたらより整った字が書けるか、字の特徴を研究してから書写に臨むこととしました。

タブレット端末を活用し、自分が書きたい文字の意味、そしてその字の特徴を調べあげ、まずワークシートにまとめました。そして次の時間、自分で決めた「字の書き方のポイント」をもとに、一度半紙を折った状態で練習。最後に、まっさらな半紙に席書となりました。

担当教員が机間指導する中で、やはり自分で決めた字であるということも関係しているのか、一人一人が「どうやったらより上手く書けるか」ということを強く意識していました。書き順はもちろん、一画一画の長さ、字の中心軸の定め方など、細かいことを質問する生徒もいました。また、普段一緒に授業を受ける機会のない、他のクラスの人たちの集中した取り組みを間近で感じることで、どの生徒も「今まで以上の字を書きたい」とより集中したように感じました。

席書会の静かで非常に集中した姿は、ここまで二年生の学習を、二年生自身がなんとか表現したいという意欲のもと形作られていたように思いました。中には難しい四字熟語に挑戦した生徒もいましたが、教室での学習よりもうまくできたことを喜び、授業の最後には嬉しそうに他クラスの子へ見せていく姿も見られました。

1年生 国際理解教育 2／17

1年生でキャリア教育の一環として国際理解教育が⑤⑥校時に実施されました。台湾の台北駐日経済文化代表処の教育部長さんや留学生4名を貫井中にお迎えしていろいろな交流を通じて学習しました。

はじめに台北駐日経済文化代表処教育部長さんより台湾の位置や、歴史について説明いただきました。

台湾は熱帯に属し、一年中暖かい。沖縄県石垣島に近く、日本の九州ぐらいの面積があること。また、日本同様に大航海時代の影響を受けた。かつて日本の統治下（日清戦争後50年間）にあった話がありました。さらに、宗教（仏教、儒教、道教など）、学校給食について話があり、給食では1週間に一度はベジタリアンという野菜だけのメニューがあることを教えていただきました。その後学年全員で答えるクイズを行いました。



1 台湾の形、2 台湾の首都、3 烏山頭ダムの建設目的、4 總統府について、5 中部大震災でいち早く救援してくれた国、6 台湾について誤っている答え、7 台湾の果物、8 台北駐日経済文化代表処教育部長さんの好きな食べ物、などを答えるクイズがあり、大変盛り上りました。



実は意外に知られていないと思ったことが、台湾では納豆が食べ物として非常に人気があり、値段は日本よりも高いということでした。その後、4名来ていただいた留学生の方たちとクラスごとに交流を交えた話に入りました。

印象に残った事に、通学の際には保護者の方がバイクに乗せて送ってくれることが当たり前のようによくあること。あるいは、「ご飯は食べましたか」というあいさつをすることが台湾では親しみがわくということでした。

日本と同じアジアの国、そして箸を使用したり、お米を食べたりする食の共通文化がある国の方々と、生徒たちは興味深く、積極的に会話を楽しんでいました。

学校地域連携事業

貫井中学校では放課後学習教室、夏季学習教室が学校地域連携事業の一つとして実施されています。この学校地域連携事業は学校を応援してくれる学校地域連携事業コーディネーターの方々2名から、学校での通称、連携会議を通じて地域のいろいろな人材をご紹介いただき、授業の補助や支援、サポートを行っていただいている取組です。



例えば家庭科の浴衣の着付け授業。音楽の箒指導の支援や補助。英検の試験監督。美術の和菓子模型づくりの講師の方の紹介。理科の実験支援や補助。家庭科の調理実習補助。そして放課後の学習教室と夏季学習教室（放課後学習教室は各定期考査前4日間、夏季学習教室は夏季休業中4日の計20日間程度、年間延べ500名以上の生徒が参加）を学校地域連携事業として行い、今までに大変大勢の方たちが学校の支援に携わってきました。

学校としてはこの補助や支援、サポートを大変嬉しく思っています。先生方は放課後になると、その日の教科指導の残務処理、課題等の回収整理やチェック、翌日以降の授業準備、生徒の悩み相談等を含めた個別の面談や指導、そして部活動と続きます。もちろん教科ごとの補習が入ることもあります。そのため少しでも業務が減ることは嬉しいことであり、業務が減ることは違う種類で生徒たちの業務に携わることができるからです。また、生徒たちにとっては地域の大人の方々と交流する貴重な機会にもなっています。このように学校地域連携事業は生徒たちにとって大変有益な事業となって学校に根付いています。

その中でも学習教室は主に定期考査に向けた学習の支援、特に試験勉強で分からぬところを学習ボランティアの方に質問して解決するという学習方法をとっています。また、夏季学習教室は、夏休み中の宿題、課題で分からぬこと等を主に質問する学習の進め方をしています。多くは大学生ぐらいの本校の卒業生の方々が学習ボランティアで駆けつけてくれています。生徒たちにとって、自学自習の貴重な機会であるとともに、学習意欲を高めるきっかけともなっています。

学校地域連携事業が始まったのは平成29年度からです。地域の方々がいろいろな方面で学校を応援、サポートしていただいていることは大変嬉しいことです。この紙面をお借りして改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

3年生選挙啓発講座

3月2日、2校時、練馬区選挙管理委員会の職員の方々が来校し、「選挙啓発講座」が体育館で開かれました。この講座は、練馬区選管が、若者に「主権者意識」を持ってもらう事などを目的に、毎年開いているものです。2日は、卒業を控えた3年生・約130人が出席しました。

はじめに、担当者の方から「選挙」についての説明があり、生徒たちは、熱心にメモを取るなどして、理解を深めていました。そして、「模擬投票」の前に、4人の架空の立候補者の演説動画を視聴。3期目を目指す男性候補者に対し、新人3人が挑む構図という想定です。実際の投票所が再現され、128人全員が、投票箱に1票を投じました。



結果、子育て政策の充実を訴える「新人候補（女性）」が、「元タレント候補（女性）」を3票差で破るという接戦！（有効投票数は、「124」、無効票は「4」）。つまり、次点候補があと4票獲得していれば、逆転していたというもので、開票と同時に、歓声があがりました。生徒は「意外と簡単に投票できた」「選挙の仕組みは、授業で習っていたが、実際に体験できて良かった」「誰に投票するか、迷った。日頃から政治に興味を持つことが大事と感じた」等、様々でした。来月、区議会議員選挙を控えているということで、担当者は「選挙は終わりではなく、はじまり。今後も若者に関心を持ってもらえるよう、啓発活動に力を入れたい」と話していました。

3年生を送る会

3年生を送る会が4年ぶりに実施されました。全校生徒がアリーナに集合して送る会を実施したのは本当に久しぶりでした。本校にとっては伝統的な行事で、平成30年度に全校生徒が集合、実施して以来、久々に全員が集まっての実施でした。この間、会そのものを中止にしたり、1、2年生がZoom等で参加をしたり、出し物を録画して3年生だけがアリーナに集まって鑑賞する等、この数年思うような実施ができませんでした。

しかし、今年はコロナ禍も収束に向かい、やっと全校生徒がアリーナに集合できました。それだけに生徒たちの思い入れや気合いの入れようも過去3年間とは大違い。全校生徒が有意義に楽しむ盛大な送る会となりました。会は生徒会本部役員会を中心となって運営されます。そのためさまざまな委員会がいろいろな役割を担いながらの運営となります。例えば3年生が入場する際の花輪プレートを実際に掲げるのは保健委員会が担当するなど、各委員会が色々な面で関わりを持ちます。会は、オープニングセレモニーの後に全校生徒の手拍子で3年生が入場して始まりました。その後3年生のクラススピーチ、そして有志団体によるさまざまな発表へと続きました。紹介すると吹奏楽部有志による演奏「3年生へ愛と感謝をこめたコンサート」、1年女子バスケットボール部による「速報1年生ニュース」、1年女子有志による「羽ばたけ3年生」、2年男子による「貫井姫」、男女柔道部・剣道部有志による「うそ発見マシン試作第34号」、最後にエンディングセレモニーへと続きました。生徒たちが自発的に行動して創る会だけに、いろいろな発想があり、多くの笑いや歓声がアリーナに響く楽しく充実した会でした。ただ、感染予防対策を行ったため保護者の方々は残念ながら招待はできませんでした。来年度は鑑賞していただく機会がつくれたらと思います。楽しみにしていてください。

